

今週のメニュー

■トピックス

◇PVC Design Award 2012 募集スタート

ー塩ビものづくりコンテストは新たな名称とともに開催ー

PVC Design Award 実行委員会事務局

■随想

◇ビニル手袋について（2）

日本ビニル工業会 業務部長 鈴木 環

■編集後記

■トピックス

◇PVC Design Award 2012 募集スタート

ー塩ビものづくりコンテストは新たな名称とともに開催ー

PVC Design Award 実行委員会事務局

4月20日に、「PVC Design Award 2012」の作品募集をスタートします。このコンテストは、昨年初めて開催した「塩ビものづくりコンテスト2011」に続く催しで、軟質塩ビを扱っているサプライチェーンの6団体（日本ビニール商業連合会、日本ビニル工業会、東日本プラスチック製品加工協同組合、中日本プラスチック製品加工協同組合、西日本プラスチック製品加工協同組合、塩ビ工業・環境協会）が共催し、九州ビニール製品工業会が協賛され、前回に引続いて、経済産業省、日本インダストリアルデザイナー協会に後援を頂いています。

[\(フライヤー\)](#)

一般の作品応募期間は4月20日から8月20日、製品応募期間は6月20日から10月20日で、一次審査を通過した優れた作品は主催者側がプロトタイプを試作し、一次審査を通過した製品とともに最終審査を行い、11月27日に審査結果の発表と表彰を行います。

今回は、もっと多くのデザイナーに応募して頂くため、審査員の先生方とも熱心な議論を重ね、新たに「PVC Design Award 2012」という名称とともに開催することになりました。開催時期も、デザインを学ぶ学生さんが参加しやすい4月をスタートとしました。テーマはビジネスに結びつく作品・製品を期待して、{社会に求められる「OO×Soft PVC」}としています。私たちの身の回りの様々な物事とSoft PVCを掛け合わせて、そこから新たな用途やニーズを創出した「少し先の未来の定番になる作品・製品」を期待しています。

既に、デザイン専門誌AXISのWEB発信である「jiku」に、軟質塩ビの素材をデザイナーに理解して頂くため、[「デザイナーのための塩ビの教科書」](#)として、軟質塩ビ

素材を用いたいろいろな製品や前回のコンテストの受賞作品などを1月から紹介しています。特に、欧州を中心とする海外でのデザイン性に優れた製品を取り上げ、塩ビの透明性、彩色性、印刷性、大型の造形性などの特長が分かります。

詳しい応募内容は、日本最大のコンテスト情報のポータルサイトである[「登竜門」](#)に掲載し、[塩ビ工業・環境協会](#)と[日本ビニル工業会](#)のホームページにも掲載しています。

是非、多くの方に参加頂き、塩ビ素材の新たなビジネスへの可能性を広げて、関連する塩ビサプライチェーンの方々が“日本のものづくり力”に自信を深め、この「PVC Design Award」が世界に発信できる取り組みに育っていくことを関係者一同願っています。（了）

■ 随想

◇ビニル手袋について（2）

日本ビニル工業会 業務部長 鈴木 環

今回は一般家庭や屋外、作業場、スーパー、食堂、など幅広く使用されます「ビニル手袋」の種類、品種、原材料についてご説明します。内容は日本グローブ工業会 家庭用手袋部会にご協力頂きました。

1. 種類

ビニル手袋は用途により、家庭用、作業用、医療用、調理用に大別されます。

（家庭用手袋）

家庭用手袋は素材によりビニル製、天然ゴム製、合成ゴム（ニトリルゴム）製に、また表-1の通り厚みにより「厚手」、「中厚手」、「薄手」の3種類に分かれます。

需要の傾向としては厚手から中厚手、薄手へとシフトしつつあります。これは使用目的が、水が冷たいからという理由から手荒れや手の汚れ防止になる傾向の為です。

家庭用手袋の主な用途は、一般的な家事（食器洗い、掃除、洗濯）のほか、洗車、DIY、ガーデニング等の屋外での用途も広がっています。



（作業用手袋）

作業用手袋は素材により、ビニル製、天然ゴム製、合成ゴム（ニトリル、ポリウレタンなど）製があり、メリヤスなどの裏布がついたタイプと裏布のないタイプがあります。土木、建築、機械、化学工業、農業、漁業など、それぞれの用途に合わせた手袋を使い分けています。

（医療用手袋）

医療用手袋は手術用、歯科用、検査・検診用などに使用される薄手や極薄の使い捨て手袋です。素材はビニル製、天然ゴム製、合成ゴム製があり用途により使い分けています。

(調理用手袋)

調理用手袋はスーパーや食堂、飲食店、学校給食等での食品加工調理用に使用される0.20 mm以下の極薄の使い捨て手袋です。素材種類はビニル製、天然ゴム製、合成ゴム製、ポリエチレン製などがあり使用用途により使い分けています。品質や原材料は全て食品衛生法に基づく規格基準に適合しています。

2. 品 種

ビニル手袋は厚みによって厚手、中厚手、薄手、極薄の4種類に区分され、それぞれ作業用、家庭用、医療用、調理用等に使用されます。

表-1 ビニル手袋 品種 (厚み別)

種 類	厚み (mm) 掌部分	用 途	特 長
厚手	0.45 以上	作業用、家庭用	左右が分かれていて、内面に植毛を施したり、メリヤス手袋と積層となっているものが多い
中厚手	0.35~0.45		
薄手	0.20~0.35	家庭用	左右が分かれていて、内面は着脱をよくするための処理がされている
極薄	0.20 未満	医療用、調理用	左右兼用タイプが主流 使い捨てが主流

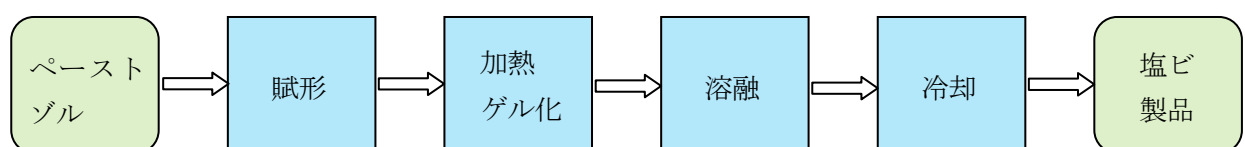
3. 原 材 料

ビニル手袋に使用される主原料は、塩ビペースト樹脂を可塑剤中に均一分散させた液状ペーストゾルです。

塩ビペースト樹脂は、塩ビモノマーを乳化重合方法により得られる塩化ビニル樹脂で、重合度800から1800位、粒度は約0.1~2 μ mの微細な球形粒子よりなる白色粉末です。ペーストゾルの基本的配合は、主剤の塩ビ樹脂、可塑剤(硬さ調整)、安定剤(熱焼け防止)で、さらに充填剤、顔料、発泡剤など必要に応じて加えます。

流動性のあるペーストゾルは表-2の通り、^{ふけい}賦形し、加熱・ゲル化、熔融、冷却の過程を経て、さまざまな塩ビ製品が製造されます。

表-2 塩ビペーストゾルの加工法



(つづく)

■ 編集後記

新しく編集委員に加わった KT です。今後も宜しくお願いします。

震災後のパリーグの開幕戦で、楽天の選手が「日本の底力」という言葉を使い、多くの方々を勇気付けたシーンを強烈に私自身は覚えています。昨年、仕事の関係で東北地方、主に仙台へ数多く出かけました。そこで見かけたのは、今も続いている多くのボランティア活動の方々に、遠く沖縄・鹿児島から仕事を止め、この活動に参加しているという方々もいらっしゃいました。このような光景を目の当たりにし、「日本の底力」を感じることができましたが、今後もその「日本の底力」を感じ続けられる国で有って欲しいと思っています。(KT)

■ 関連リンク

- [メールマガジンバックナンバー](#)
- [メールマガジン登録](#)
- [メールマガジン解除](#)



◆編集責任者 事務局長 東 幸次

■東京都中央区新川 1-4-1

■TEL 03-3297-5601 ■FAX 03-3297-5783

■URL <http://www.vec.gr.jp> ■E-MAIL info@vec.gr.jp